

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370103949		
法人名	社会福祉法人 諒和会		
事業所名	グループホーム さくらの里 ひまわりの里		
所在地	熊本市西区松尾町近津1364 1359		
自己評価作成日	令和4年11月19日	評価結果市町村報告日	令和5年 2月 14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人お一人の好みや、嚥下機能に応じて提供する毎食手作りの食事は、入居者様から好評を得ている。家庭的な雰囲気の中で、入居者お一人お一人の心身の状況に合わせて食事の盛り付けやお盆拭き、洗濯物たたみ等、役割を担って頂きながら、充実した生活が遅れるよう努めている。新型コロナウイルスの影響で買い物レク等、苑外活動や、ご家族や地域の方との行事は控えているが、近隣への散歩やドライブ、事業所内での行事の充実を図り、楽しんで頂いている。また、個別にリハビリメニューを作成し、身体機能の維持に努めている。10月に開設したひまわりの里も、さくらの里同様、家庭的な雰囲気の中で入居者お一人お一人のニーズに合わせてサービスを提供している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和4年12月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度はユニットが増設され、にぎやかになった様子が窺えました。職員増員のための研修は全職員を対象に改めて行われ、会議や朝礼でも理念や事業所の思いを繰り返し伝えることで返る機会も多く見られました。新ユニット開設内覧会では地域の方々への訪問も多かったようで、地域に根付いた事業所の取組の様子も聞かれました。変わることもない自然豊かな周辺環境を眺めての生活は穏やかで、職員手作りの食事やおやつ、事業所周辺の散歩等、コロナ禍であっても今までと変わらない生活が送られています。入居者の年齢層や介護度も幅広く個別対応の場面も増えたようですが、法人間の連携や協力体制で安心安全な生活への支援が続けられています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ありがとうの心をさりげないやさしさに」の理念のもと職員綱領を作成し事務所に理念と綱領を掲示しておりその人らしい暮らしができるよう取り組んでいる。	今年度は新しいユニットの開設もあり、特に会議やオリエンテーション、朝の申し送りを利用し、理念と事業所の歴史等を伝えている。以前からの職員も改めて振返りの機会とするよう参加し共有を行った。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣との交流や地域の行事や法人内のイベント等で交流を図っていたがコロナ禍において現在は、行事等を控えている。	従来より法人全体で地域との関わり作りや協力等に力を入れている。地域役員の方々には運営推進会議だけでなく日頃の散歩中にもお会いする機会も多く、日常的に情報交換を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所で毎月、さくらの里だよりを利用者の家族に発行している。入居者の状況や毎月の行事や、さくらの里内での取り組み等をお知らせしている。また法人でも3か月に1回、広報誌を発行している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在も新型コロナウイルス感染予防の為、会議は開催できていないが、散歩の途中にお会いした際は、事業所の様子を話したり、地域の状況等を伺い意見を聞いている。	出来るだけ対面での開催を検討しているが、コロナ禍でもあり書面による報告も多くなった。事業所では毎月広報誌を作成しており、日頃の様子も写真を交え報告している。地域役員の方にはお会いする機会も多いため、書面報告の際にも直接意見を伺う等取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在も新型コロナウイルスの影響で運営推進会議は開催できていないが事業所内の職員にてオンラインでの包括的支援事業のケア会議の参加や包括による地域の情報提供に取り組んでいる。	今年度は新ユニット開設のため市役所を訪問する機会も多くなり、日常的な報告・連絡・相談等も行ってきた。地域に関することでも包括支援センターとの連絡を取合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営理念に基づき身体拘束をしないケアを行っている。また、法人内の法定委員会に参加し委員会での内容を他職員にも周知している。事業所でも年に2回、身体拘束の勉強会を実施。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人で開催される「身体拘束適正化委員会」に管理者が参加し、内容は職員で共有している。委員会では、身体拘束に関する知識を深め、拘束に繋がる「おそれ」への対応まで事例にて検討している。事業所での勉強会は、新規採用時に加え年間研修でも複数回行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どのような行動、言動が虐待に相当するのかを事業所内での勉強会で学ぶ機会を設けている。また、職員同士でお互いに気づいた事は注意し合える環境に努めている。		

グループホーム さくらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍が継続しており現在、法人内の勉強会は控えている。月1回、事業所内で勉強会を行い知識を得る機会を設けている。勉強会での内容を職員一人ひとりが考え日々自己研鑽に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、改定時は文章及び口頭で丁寧な説明を行い、事業所独自の規定についてもきちんと説明を行った上で疑問等に答え理解、納得して頂くよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍が継続している現在、運営推進会議や家族会は中止している。面会時や差し入れの際、意見や要望、苦情を遠慮なく頂けるように玄関にポストを設置し、事務所の見えやすい所に苦情相談窓口を設けている。	感染症予防の観点から面会制限がやむを得ない時期もあったが、できるだけ方法を工夫し面会の受入れを行っている。日頃より入居者の様子を職員や主任から家族へ連絡を入れており、意見や要望の確認も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回法人の代表者会議に出席し、グループホーム内で解決できない事等を検討している。また事業所内での勉強会や毎日の申し送り等で日常的に意見が言える雰囲気を作っている。	管理者は日頃よりケアに携わっており、職員の意見や提案を聞くことができる体制である。日々の必要事項は申し送りで共有し、必要に応じて管理者は代表者へ報告し運営への反映も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得や外部研修の支援を行っており各自の意識や介護技術向上に努めている。また認知症ケアのスキルアップの為、認知症実践者研修、リーダー研修等も受講出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の現在、法人内で開催される勉強会は自粛中であるが、事業所内で勉強会を月一回行っている。また新人職員には、マニュアルに沿った項目ごとに指導を行い、個々の知識や技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本市のグループホーム連絡会に所属し意見交換等ができる環境を整えている。また外部研修には多くの職員が参加できるようにフィードバックを行う事でサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の施設見学の際、利用者及びご家族様から要望や不安点を伺い、それに対応する必要な説明を行っている。また、ご本人への訪問調査を行い、入居後スムーズに対応できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談でご本人様の思いやご家族様の思い、また当事業所の理念等をゆっくり話し合い、ご本人やご家族様が求めているものを理解し受け止めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居されてから暫く、ご本人様をアセスメントし担当職員を含めてカンファレンスを行った上で現段階での必要な支援を職員間で共有して行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を営む住居人として生活内での役割を可能な範囲で担って頂き、共に生活を行う中で入居者同士のスムーズな関係が築けるよう職員が関わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には家族会や法人の行事等に参加して頂いたりしていたがコロナ禍継続に於いて直接触れ合うことが難しい為、電話でご本人様の状況説明やご本人様と直接会話して頂く機会を設けたり、リスクレベルに応じて玄関での面会を実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の馴染みの場所にドライブしたり地元の方とお話したり他事業所のご利用者様との交流を行っていたがコロナ禍継続においてまだ困難な場合もあるので、電話でご家族や親戚の方と会話できる機会を設けている。	コロナ禍でもあり以前のように気軽な来訪や外出による関係支援が難しい状況であるが、入居者に馴染みのある温泉や港等へのドライブや、散歩等での近所の方々との触れ合い、近隣住民等の来訪等、これまでの生活の継続に努めている。	家族アンケートで少数ではありますが、ホームでの様子をもっと知りたい・関わりたいの思いがあるようです。コロナ禍ではありますが、感染をしない工夫・時期等を鑑みながら家族との繋がりを絶やさないうような工夫の試みに期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや集団体操や運動レク、お手伝い等で、入居者の方同士が交流出来るよう職員が間に入り会話がスムーズ出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移動したり、入院し退去された方に相談員やソーシャルワーカー等から、その後の経過をお尋ねしたり、ご家族様に連絡し意向の確認を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の体調や心境、思いを普段の何気ない会話や仕草等で確認し、把握するよう努めている。またご家族から本人の思いを伺い、意向の把握に努めている。	入居者の介護度の幅も広く、個別に多様な支援を必要としている。思いを表すことが難しい入居者には職員の日々の寄り添いで表情を確認している。職員から家族へ日々の状況報告も行っていることから、家族の意向も確認し、入居者本位の支援となるよう取組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、これまで担当されていたケアマネジャーに伺い情報収集に努めている。ご家族に確認するとともに入居前後の面談時にご本人やご家族に生活歴や、経過を伺い、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員を中心に全職員で生活状況を観察し、心身機能の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を中心に毎月モニタリングを実施し、半年に1回アセスメント表を作成し介護計画の見直しを行っている。ご家族には、電話や面会時に本人の状況をお伝えするとともに、ご家族の意向を伺っている。	モニタリングは毎月入居者の担当職員にて行い、アセスメント・介護計画の見直しは年2回行っている。介護計画作成・見直し後は直接家族へ説明を行うため出来るだけ来訪している。	日頃から家族への連絡も行い状況報告されている様子が聞かれました。介護計画に家族の意見を反映させるため、家族同席での担当者会議開催を検討されてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の状況やサービス内容は個人記録として随時入力し、パソコン内や申し送り情報共有を行っている。又介護記録をもとにモニタリングを行い計画書の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一日の流れや個々の日課はある程度決まっているが、希望に応じて散歩にお連れしたり、入浴日の変更を行っている。		

グループホーム さくらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の方々、各々の以前の暮らしを把握し、現状に従って穏やかで安定した生活を送って頂ける様に努める。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に以前からのかかりつけ医の診察も可能であることは説明している。グループホームの協力医療機関を希望された場合は、入居時に一度外来受診をし、次回よりグループホームにて往診して頂いている。	入居前からのかかりつけ医での受診継続を支援しているが、現状殆どの入居者が協力医をかかりつけ医としている。協力医からは毎週回診があり、体調不良時にはすぐ指示を得る事ができる体制が整っている。通院は基本的に職員による。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の健康状態や気づきは、看護師から医療連携看護師やかかりつけ医に報告し、指示を仰ぐことで適切な対応が出来る体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、病院のソーシャルワーカーと密に連絡をとり情報交換を行っている。また状況に応じ、かかりつけ医と入院先の医師と情報交換をして頂き、介護・看護の両面から対応出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や看取りについての事業所の指針を説明している。また重度化した場合は、ご家族様や、かかりつけ医と話し合いの場を持ち、グループホームで出来る事や、ご家族の意向を伺う場を設けている。	重度化や終末期に向けた方針や事業所でできること等を入居時に説明し同意を得ている。実際にその時を迎えた際には家族と医師・関係機関と連携し、事業所での対応を都度確認説明しながら支援を行っている。医療措置が必要な際は入院を希望される例も見られ、入居者にとっての最善となるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を定期的に行い、全職員が急変や事故発生時の緊急マニュアルの確認、対応ができるよう訓練している。入職時にもオリエンテーションを必ず行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に法人と共同で火災避難訓練を行ったり事業所で地震や水害等自然災害マニュアルの見直しを行っている。	火災避難訓練は入居者参加にて実施している。大雨の際は隣接する関連事業所2階への避難と定めており、実際に避難も行った。車椅子の入居者もおられるため、職員間の情報共有に努めている。停電に備えガスコンロや非常食も備えている。事業所研修会でも議題を持った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格や意思を尊重し、入居者にあつた言葉かけや対応に努めている。接遇に関する勉強会も行っている。	新ユニットの開設を機会に、全職員に改めて管理者より話す機会を持った。接遇勉強会も実施し、入居者への対応や言葉遣いについて共有を行った。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が考えた日課を押し付けるのではなく、入居者が自分の希望を表現し、それに応じて職員が日課を組み立てられるよう、入居者とのコミュニケーションを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活スタイルを尊重したうえで、各業務を担当する職員が入居者の為にマネジメント出来るかを常に考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前からの習慣を大切にし、必要な物があれば家族に依頼したり、グループホームで準備をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は季節感や入居者の好みを取り入れ立てている。好き嫌いが多い方には別メニューを提供している。調理においては、野菜の皮むきや盛り付けを手伝って頂いている。食事は職員と一緒に摂り楽しく食事が出来るよう心掛けている。	従来より各ユニットそれぞれ職員手作りの食事が提供されている。職員の日々の関わりから好みや好き嫌いの把握もできており、臨機応変な対応ができる。職員も入居者と食事を共にし、食事の様子も日々確認している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食個々の食事摂取量をチェックし、献立は食材の偏りがないよう留意している。また、月1回併設特養の管理栄養士によるミールラウンド、献立チェックをして頂き、助言を得ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者の能力に応じ歯磨きの声掛けや介助、義歯洗浄を行っている。また毎月歯科衛生士により助言、指導を頂いている。		

グループホーム さくらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者、それぞれの排泄パターンを把握できるように排泄チェック表を用い職員間の情報の共有化に努めている。失禁に対し、原因の究明と対応等を検討し、なるべくオムツを使用せずトイレで排泄ができるよう支援している。	日中はできるだけトイレでの排泄を支援している。尿意・便意を表すことが難しい入居者には職員から声掛けを行っている。便秘予防のため食事の水分量や軽い運動等も行っている。オムツ等の使用は安易に行わず、検討・試行を重ねている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分補給の時間以外でも入浴後等などでもお茶等を提供している。また、散歩や軽い運動、腹部マッサージを行う等の対応で便秘の防止に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回、午後入浴時間を基本としているが希望があれば、いつでも入浴できる。また、夏場、汗をかきやすい方は、入浴日以外でもシャワー浴を実施し、清潔の保持に努めている。	週2回入浴を基本とし、希望があればいつでも入浴できる。身体状況等により浴槽の利用が難しくシャワーの際には肩にタオルを掛ける等、体が冷めないようにしている。滑り止めマットの置き方を工夫したり、回転式のシャワーチェアを利用する等、転倒や安全に配慮した支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者、個々の状態や希望に応じ睡眠に影響のない範囲でベッドで休んで頂いている。寝具は備え付けがあるが自宅で使い慣れた枕や毛布を使用しリラックスして頂き快適な睡眠がとれるよう支援している。またリクライニングベッドも導入し、入居者の身体状況に応じた対応も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個人カルテに綴り常に内容の把握ができようとしている。処方薬の変更や追加薬等があった場合は朝、夕の申し送りノートに記載し、情報の共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力やその日の気分に応じて、洗濯物たたみや、お盆ふき、おかずの盛り付け等を手伝って頂いたり、花の苗植え等して頂き、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は、周辺の散歩にかけ、景色を見ながら季節の移ろいを感じられるよう支援している。また、コロナの感染状況を見ながら感染対策を行い、ドライブに出掛け、気分転換が図れるよう支援している。	気候の良い時には近隣の散歩を行っている。周辺は田畑や山の景色を楽しむことができ、近隣住民との触れ合いも見られる。感染症リスクレベルによって入居者の馴染みの場所へのドライブ等も行った。隣接するユニット間を互いに訪問する姿も日常的である。	

グループホーム さくらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、ご家族の了解を得たうえでご本人がして頂いている。支払い等は、ご本人ができるよう援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍により、面談等は不可な為、電話や写真等の交流、また書面での様子を伺いにご家族様共に喜ばれている。ご利用者の方々も気持ちや表情が豊かになれる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮したうえで、廊下等共有スペースには、行事の写真や季節感のある飾り付けを行い、居心地よく過ごせるような空間作りをしている。	玄関を入ると行事等での入居者の笑顔の写真が飾られている。木造で温かみのあるリビングからは、入居者のこれまでの生活に馴染んだ景色を望むことができ、季節の移り変わりを感じることができる。リビングには食卓の他に畳スペースもあり、くつろぐ場所にもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先にベンチを設置したり、玄関ホールにマッサージチェアを設置し、日光浴をしながらマッサージを受けたり、入居者同士で会話を楽しむ空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた布団や家具等持参して頂き、出来るだけ自宅にいるような雰囲気になる様心掛けています。ベッド上においては、いつも枕や布団の位置を整理整頓しておくよう心掛けています。	洗面台のある居室では、入居者自らが身だしなみを整える姿もあり、日々の生活が送られている様子がある。安心・安全への配慮のためバギーカー等を置く目印もあり、身体状況により家具の配置にも配慮している。入居者それぞれのペースでゆっくりできる空間である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の方それぞれの意向や身体状況に合わせて家具やベッドを配置し、位置を職員全員で把握し、安全に、安心してすゝして頂ける様配慮している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームさくらの

作成日 令和 5年 2月 24日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1		新型コロナウイルス感染対策の為、外出や行事等が開催出来ない。またリスクレベルに応じて面会時間を制限したりとご家族の方とゆっくりお話が出来ない状況である。	コロナ終息後は、以前のように入居者の行きたい所へ外出したり行事等を企画し地域の方やご家族との繋がりを深めていく。	リスクレベルに応じて法人事業所における感染対応を確認し、ご家族様に面会制限及び時間等の説明を丁寧に行い施設として出来ることを実践していく。	6ヶ月
2		入居者の身体機能・認知機能が全体的に低下しており以前までは出来ていた事が出来なくなっている。	入居者の自立支援や個別リハを重視しグループホームでの生活を維持できるようにしていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・生活リハ（洗濯たたみ・小鉢の盛り付け・皮むき）等を時間が掛かっても行ってもらい個人の残存機能を活かした取り組みを行う。 ・個別リハを実施し身体機能の維持に努める。 	12カ月
3		新型コロナウイルス感染症に対する対策。また予防等の知識を深める。	職員、入居者がコロナウイルスに感染しないよう健康観察の徹底。また体調不良時はすぐに報告できる環境を作っておく。	・陽性者が発生した場合の対策を行っていくのかを職員全員で話し合い具体的な取り組みを決めていく。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

